

文章構造 読み解き

2
第2回

あえて言う「読むより、描け！」

入門編・論説文2 構造をつかみ、図にして解決

(氏名)

目標：文章構造図をしつかり定着
難しい文を図にして理解する

おしめえをこれっぱか
読んだだけでけた！
けなるいらあ。

最後をたったこれだけ読んだだけで
できた。うらやましいでしょ。
—長野県の猿左衛門さん



1 ハワイのは肉まん、あんまん？

■作例 太平洋と大西洋のどちらがえらい

①太平洋と大西洋ではどちらがえらいのだろうか。私の意見は次のとおりだ。

復習です。もう一度、次の図を見てください。思い出しましたね。



では、理解を完全にするために、作文をしましよう。心配いりません。とてもかんたんです。まず例を見せましょう。

タイトルは「太平洋と大西洋のどちらがえらい」です。

段落構成は次のようにします。

- ① 問題提起
- ② 具体例を二つ
- ③ 結論

どちらがえらいと思いますか？ では、「太平洋」がえらい、という例文です。なお、文章の中身は、事実とは何の関係もありません。

ばかばかしい文章です。でも、これが論説文（以後、この本では、説明的文章を、特別な例外を除いて「論説文」と呼ぶことにします）の基本です。もう一度いいますが、これから練習では、みなさんが書いたことが事実として正しいかどうかは問いません。正しい構造の文章を書きさえすればよいのです。

では、例題。タイトルは「肉まんとあんまんはどちらがえらい」「です。段落構成は次のことおり。「太平洋」と同じです。

- ① 問題提起
- ② 具体例を二つ
- ③ 結論

困つたら、「太平洋」の例文を見てかまいません。また、理由は無理やりこじつけてください。では、書きましょう。

玩証極

■例題 肉まんとあんまんはどうがえり

① 問題提起

② 具体例を二つ

書けましたか。これであなたも一人前の論説文作者（かもしけません……）。では、読解にもどります。次は、難しい文章に挑戦です。確認です。結論をつかもうと思ったら、真っ先にどの段落に目を通しますか？ 次の空欄に書いてください。

【】の段落

いいですね？ 「」の段落です。その次は、最初の段落です。「タイトル」も忘れずに。

ではもう一つ確認。最後の段落の中では、まずどこを読めばいいですか？ 書いてください。

【】の文

そう、「」の文です。次はやはり、その段落の最初の文です。では、その文が、どんな感じの文だったら、「どうやらこれが結論（主張）らしい」と考えられますか？

【】的な文

われ、よう見たらピザまんやんけ

③ 結論

いいですね？

一 「的な文」——漢字で書けるようにしてください

——どうですか、難しいですね。でも大丈夫。いっしょに読み進めましょう。

2 文明は文化が大好物なの?

では、東京都立戸山高校の入試問題（2009年度）。ものすごく長くて難しい文章です。その「最後の段落」だけ抜き出します。どうぞ。

■例題 東京都立戸山高校 2009年度

科学技術と市場経済に支配されたグローバル文明の潜勢力は、巨大である。そのため、その津波のような勢いの前に、諸文化の差異は薄められ、その多様性と独立性は失われていく。そして、一様化され、画一化された単一な文明が形成される。二十世紀以来のことではあるが、二十一世紀は、均一化された文明がこの地球を包摶することになるであろう。世界の合一化とはそのことにほかならない。こうして、全地球的に覆い尽くされた巨大な物質文明の中に、今までのあらゆる文化が呑み込まれていくことになる。

（小林道憲「不安な時代、そして文明の衰退」による）

難しい。難しいと思った場合のいい方法を教えましょう。

まず、一番大切なはどこか。第一の候補は「 」の文、で

したね。思い出してください。

はい「 」の文です。もし、最後の文があまりそれらしくなかつたら、その前の文、場合によってはさらにその前、とさかのぼっていけばよいのです。

では、最後の文が「それらしい」かどうかは「 」的であることが、目安になるんですよね。何的ですか？

はい「 」的ですね。具体的なことが詳しく書かれている部分は、たいてい重要な箇所ではありません。あくまでも「例」に過ぎないことがほとんどです。

では、最後の文を読みましょう。

こうして、全地球的に覆い尽くされた巨大な物質文明の中には、今までのあらゆる文化が呑み込まれていくことになる。

重要！

- ①述語から → 主語 → 関連する語にマーク
- ②文を図に書き直す

書けましたか？

「ていねいに」読むというのは、言葉を一つ一つきちんと区切り、意味をつかんで読む、ということです。ただゆっくり読んでも意味はありません。そこで、とても重要な「読み方」を二つ教えます。

「 」
「 」が
「 」に 吞み込まれていく

入試では、難しい文を完全に理解する必要はない

本當です。文章を全部、きちんと理解する必要はありません。無理をすると、時間がかかり、混乱し、かえって大変です。

次の文を読んでください。「私はベナブソを許せない」——ベナブソが何なのがわかりませんね（書いている私にもわかりません）。でも、ベナブソを許せないことはわかります。「ベナブソ」が

「Schwanensee（白鳥の湖）」でも「阿弓利爲」でも何でもかまいません。そこで、さつきの「最後の文」をもう一回見てください。

「抽象的」ですか？「抽象的」ですね。どうやらここが結論（主張）のような感じはします。タイトルと比べましょう。タイトルは「不安な時代、そして文明の衰退」。「文明」が共通しています。そして、なんとなくあまり気分のいい話ではなさそうなことも。

そこで、この最後の文を「ていねいに」読みます。

こうして、全地球的に覆い尽くされた巨大な物質文明の中、今までのあらゆる文化が呑み込まれていくことになる。

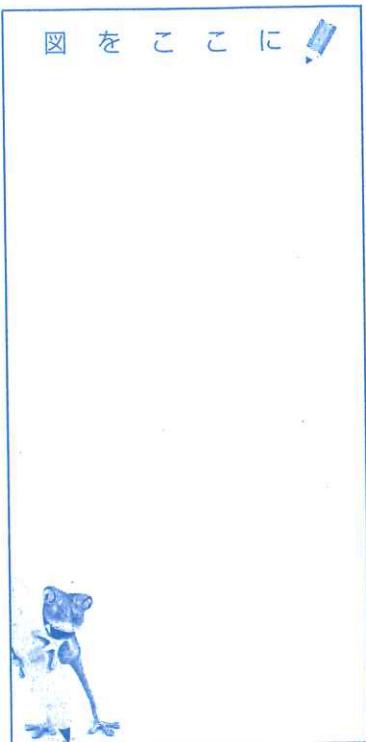
みつかりましたね。「呑み込まれていくことになる」ですね。すると、当然「何が？」、「何に？」という疑問が浮かびます。これで主語や（英語でいう）目的語をさがすことになりますね。では、「何が」「何に」「呑み込まれていく」を書いてください。

「――が「――」に呑み込まれていく

抽象的でわかりにくいですね。第一、文化が文明に呑み込まれるなどという事件が、現実に起こるわけはありません。たとえです。具体的ではありません。だから、結論（主張）らしいわけです。

さて、次のステップです。このような抽象的なものは、図にしてしまいます。難しく考える必要はありません。文明が文化を呑み込む様子を図にするのです。そうするといろいろなことが、一目でわかれます。

では、描いてください。



どんな図でしょうか。正解はありませんがたとえばこんな感じでしようか。

さあ、この難しい文章も、何が書かれているのかといえば、この図であらわした、これだけのことなのです。

では、最後の文にもう一度注目。

こうして、全地球的に覆い尽くされた巨大な物質文明の中に、今までのあらゆる文化が呑み込まれていくことになる。

右の例のように、必ずマークしてくださいね。

文のはじめに「こうして」とあります。「これ」「それ」「あれ」「どれ」をまとめて「こそあど言葉」といいます。「指示語」。知つてしまね。指示語が指示する「本体」はどこにあるのか、書いてください。

指示語の指示するものは「――」にある

「――」など、意味があつていればよろしい。これも読解の大重要なポイントです。おぼえておきましょう。



重要!

指示語の指示するものは「直前」にある

最後の文の先頭の「このように」を確かめるためにすぐ前の文を読みます。なお、最後から二番目の文にも指示語「そのこと」があるので、もうひとつ前までセットにし、文に番号をつけます。

①二十世紀以来のことではあるが、二十一世紀は、均一化された文明がこの地球を包摶することになるであろう。

②世界の合一化とはそのことにほかならない。

③こうし

て、全地球的に覆い尽くされた巨大な物質文明の中に、今までのあらゆる文化が呑み込まれていくことになる。

ではそれぞれの文の内容を、「主語・述語」を中心に、順番に並べます（文を区切ってあります）。

①文明が 地球を 包摶する（包み込む）

②世界の 合一化とは そのこと

③こうして あらゆる文化が 物質文明に 吞み込まれていく

次に、指示語を、直前にある「本体」と結んでみましょう。

書けましたか？ はい 「

」ですね。

くり返される内容 ≡ 重要

≡ 筆者の「 」 の可能性が大きい

文明が地球を包み込む ≡ 世界の合一化
≡ 文化が文明に呑まれる

気づきましたか？

要するに同じことを表現を変えてくり返しているだけなのです。では、思い出してください。くり返されている内容は、どんなものでしたか？ 書いてください。

これで、この文章が何を言おうとしているか、よくわからないけれど、はつきりわかりましたね（笑）。

文明が文化を呑み込んで、世界をひとつにしてしまう、というのです。筆者はそれをいいことだといつているように感じますか？

感じませんね。あまりよいことは考えていないようです。

さて、ダメ押しをします。ページを戻して段落を全部読んでください。

どうでしたか？

どこもかしこも同じことが書いてあるように感じませんでしたか？ そのとおりです。「くどいなあ」と思つた人はいますか？ あなたは正しい。

論説文というものは次のようなものなのです。

重要！

論説文Ⅱ 結論（主張）を、例を挙げ、表現を 変えて繰り返し、読み手を説得する文章

いきなり「文化が文明に呑まれてしまう」といわれて「うん、確かに」と納得する人はいませんよね。だから、くどいのです。

さあ、これで「ていねいに読む」はいったんおしまいです。お疲れさまでした。いよいよ問題を解きます。この文章による入試問題は、全部で5問でした。そのうち、この段落の内容とのかかわりが薄い問1と、作文問題の問4をのぞく3問を、一気に解いてしまいます。



3

文明のような勢いで解きまくれ！

では、一番難しい最後の設問、問5からどうぞ。

問5 筆者が本文で述べている内容と一致するものを、次のうちから一つ選びなさい。

- ア 現代では、地域に根差す文化的な差異や多様性が、個性的な生き方をきわだたせている。
- イ 現代では、画一化、標準化の大きな力によって、諸文化の独自性や多様性が失われている。
- ウ 現代では、空間が均質化したとはいえ、時間については、地域の伝統的な暦が日常生活を支配している。
- エ 現代では、伝統的な世界観や生活様式が、巨大な力となつて世界標準の形成をはばんでいる。

要するに、これまで何回も確認してきたことと一番近いものはどちらか、という質問です。よく読んで書いてください。

問5 解答【】

どうですか？「これ……でも、わかりやすすぎないかな……何かひっかけが……」と思った人はいませんか？何もありません。読んだとおり「」です。重要なところをていねいに（精密に）読めば、答えは必ず姿を現します。では、次。問3にもどります。

問3 —— 傍線部③「このことは、例えば、言語についても言える。」とあるが、「言語について」も、どのようなことが言えるというのか、その説明として最も適切なものを、次のうちから選びなさい。

- ア 一様性が多様性を浸食する。
- イ 一様性の上に多様性がある。
- ウ 多様性が一様性を抑止する。
- エ 多様性が均質性を統一する。

「——傍線部③はどこに？」本文のその部分はこの本にはありません。でも、すでにしつかり読み込んだ「最終段落」の内容と照らし合させて、もっとも「よくあてはまるもの」を探せばそれが正解です。なぜなら「どこも同じことが書いてある」から。どうぞ。

問3 解答【】

選択肢の言葉の意味は難しいですね。でも、関係ありません。本文をよく読んでください。「一様」が何で「多様」が何かわかれたらもうおしまいです。

はい、「一様＝文明」「多様＝文化」ですね。これがわかれれば解答は一」以外、選べないはずです。困ったことに、本文も読まずに難関高校の難問を解決してしまいました（笑）。では、もう一つ。

問2 —— 傍線部②「現代では、この一様化した文明的空

間が、地球の表面を覆っている。」とあるが、「一様化した文明的空間」と対比されることとして最も適切なのはどれか、次のうちから選びなさい。

- ア 画一性を持つた歴史的空间
- イ 個別性を持つた宗教的空间
- ウ 記号性を持つた言語的空间
- エ 多様性を持つた文化的空间

これも何やらめんどうな言葉がなんでいます。まず、設問をしっかり読みましょう。

何が問われているのですか。質問に正しく答えるためには「何を答えればいいのか」をただしく理解することが第一歩であり、また、

ほぼすべてといつてもいいくらいです。では、「設問の読解」です。

答えるべきことは何か？ 設問の文にマークしてください。

問2 —— 傍線部③「現代では、この一様化した文明的空

間が、地球の表面を覆っている。」とあるが、「一様化した文明的空間」と対比されることとして最も適切なのはどれか、次のうちから選びなさい。

マークの例は「一様化した文明的空間と対比されること」です。だいたいここにマークできていれば、合格。「文明と対比されるもの」を答えろ、といつてはいるわけです。「対比」これはとても大切な言葉です。論説文でも小説でも何回も何回も出ますから。ほとんどの文章は、何かと何かを対比させて書かれています。「日本と外国」「現代と昔」「都会と田舎」「仲間と孤独」「騒音と静寂」「自然と人工」「愛情と憎しみ」——どうですか、見たことがあるはずです。

この文章では「文明と」とですね。では解答をどうぞ。

問2 解答「」

秘密兵器

受験票

受験者への注意事項
ここに目盛り

入試でのみなさんの最大の敵は、「時間」です。入試が、日ごろの学習と違う点は、制限時間があるということなのです。学校でのテストで、残り時間が少なくなって、あせってミスをした、という経験をしたことがない人はいないはず。

そこで、限られた時間との戦いに勝つための、究極読解オススメの秘密兵器を紹介しましょう。それは《受験票》——。「はあ？」という声が聞こえそうですが、最後まで読んでください。

正しくは《受験票を使った字数カウンター》です。

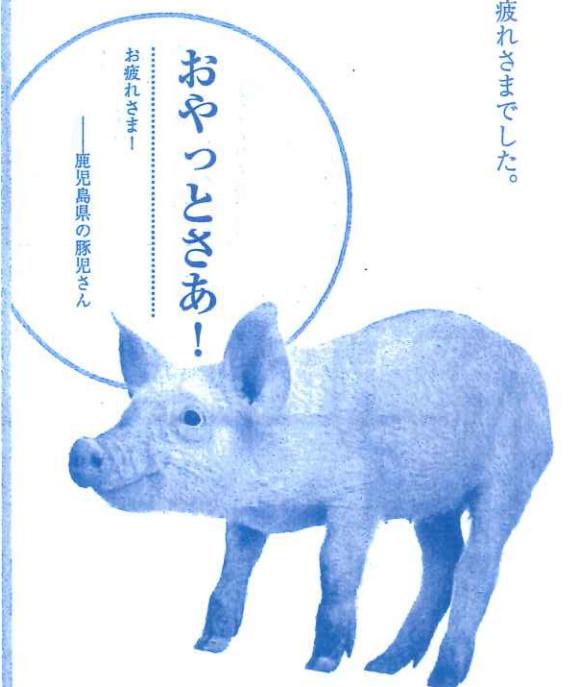
■字数カウンター■

たとえば八十字くらいの記述式解答の問題。素材は本文中がありますが、文字数を数えるのが大変です。ちょっと目を離すと「あれ、何字だった？」となります。このとき、受験票の「すみ」を使うのです。受験票を本文のどこかにあてがいます。そして、五字・十字・十五字……と、だいたい五字ごとに目盛りを書き込みます。これで《字数カウンター》のできあがり。

キーワードを探しながら、受験票を本文の横にそえ、字数を数えます。これで、速さと正確さが確実に向します。

まずは試し、練習しましょう。入試の勝敗を受験票が決める、というのも悪くないはず。

合格のその日、この受験票が、二重の意味であなたの宝ものになるはずです。



かんたんに終わってしまいましたね。お疲れさまでした。

図にまでしましたからね。思い出せますね。文明と対比されているものは文化です。そうすると正解はどうしても「一」になってしまします。「一様性（文明）と多様性（文化）」を比較したこと、強力な手がかりになるでしょう。



では、次のページで最後の「締め」に進みます。ここまでボイントをまとめます。すべて・完全に理解し、おぼえてください。

重要！**論説文の構造**

結論（主張） 抽象的な内容

+

内容（具体例など） 具体的なこと

タイプA



タイプB1



タイプB2



* 特に多いのは タイプB1
 * 段落の構造も、同じようなパターンである

重要！**解法の手順**

①結論（主張）をつかむ

1 最後の段落の最後の文からチェック

2 抽象的な文・くり返される語句・「つまり」
などが目印3 述語→主語→それらに関連する語 の順に
マークし、分析する

②設問の文を精密に読む（次回以降）

1 「何」を答えるのか、の部分にマークする
2 「どう」「いつ」答えるのか、の部分にマークする

③本文から解答のキーワードを探索（次回以降）

